

令和6年3月4日

慶應SFC学会 御中

2023年度 慶應SFC学会研究助成金報告書

慶應義塾大学 秋山美紀研究室

慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科3年 榊原旺介

【概要】

本報告書は、2024年2月6日(火)～2月7日(水)に実施された秋山美紀研究会の冬合宿についての活動内容及びそこから得られた学びを記述したものである。合宿では、4年生による卒業論文の発表が中心となり、3年生以下の学生にとっては、自身の研究に活かす「気づき」を得る機会となった。また、レクリエーション活動を通じて、次年度も研究会に残る生徒たちの結束力を高める機会となった。

【卒業論文の発表】

秋山研究会では、学生が授業外の時間を利用して個々の研究プロジェクト「マイプロ」を進めている。毎回の研究会では、マイプロの概要を発表し、研究会全体でフィードバックをシェアマイプロ発表を行っている。今回の卒業論文の発表は、これまで研究会で取り組んできたマイプロの成果を発表する場となった。さらに、卒業生が卒業論文についてのみならず、研究過程での苦労やアドバイスを共有する時間も設けられ、3年生以下の学生にとっては、自身の研究に活かせる貴重な学びの場となった。特に、先輩たちがどのようにして研究過程における課題や困難に対処し、乗り越えてきたかの事例を聞くことで、研究における心構えを学ぶことができた。このようにして、秋山研究会ではお互いを高め合い、困難に直面した時は支え合うことを通じて、研究会という場で得られる学びの価値を大切にしている。

【レクリエーション活動】

研究会での冬合宿では、卒論発表活動と共にレクリエーションと懇親会も充実した内容で行われた。レクリエーションでは、参加者全員がチームを組んで挑戦した「マシュマロパスタ」ゲームが特に印象的だった。このゲームでは、限られた材料を用いて最も高いパスタの塔を建てるのが目標とされ、戦略的思考とチームワークが試される。研究会メンバーはアイデアを出し合い、試行錯誤を重ねながら楽しみ、協力する喜びを共有することができた。

書き初めを行い、各自がこの年の抱負を一文字で表現した。この活動により、各自が内省の時間を得ると同時に、他のメンバーの目標を知ることによって、相互の理解を一層深める貴重な

な機会となった。

【参加者からの感想】

卒論発表に関しては、「卒業生の卒論に関してだけでなく、秋山研での活動の振り返りを聞いたのが良かった」「失敗談、こうした方が良かったなどの話を先輩から聞いて良かった」「研究内容だけではなく、苦労話や卒論発表までの過程を聞いて良かった」「先輩方の教訓をたくさん聞くことができ、非常にためになった」といったポジティブな声が多く寄せられた。

また、レクリエーション活動に関しては、「共同作業でチーム意識を高め合い、あまり知り合っていなかった人たちとも仲良くなりつつ、みんなの個性が出る習字を楽しめて良かった」「書き初めが新鮮で楽しかった」という声が寄せられた。

今後も、マイプロ発表や研究会メンバーが深く関わる機会を持つ必要性が感じられた。

【合宿の成果】

4年生の卒業論文発表を通じて、後輩たちは研究の深さと広がりを理解し、将来の研究方向性についての具体的な示唆を得ることができた。また、マイプロの成果を共有することで、学術的な知識の交換と相互のフィードバックが促進され、研究内容の充実と質の向上に繋がった。

レクリエーション活動では、研究会の枠を超えた人間関係の構築と、チームとしての一体感を高める機会となった。

このようにして、秋山研究会の冬合宿は、学生たちが学術的な知見を深めるだけでなく、人間関係を築き、自己成長を促す場としての役割を果たした。研究活動の共有とフィードバックは、学生たちにとって研究へのモチベーションを高めるとともに、困難な状況においても前向きに取り組む姿勢を養うことに繋がった。